

## 審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 2885 号	氏名	富岡 竜介
審査担当者	主 査	石 竹 達 也	(印)
	副主査	赤 木 由 人	(印)
	副主査	藤 本 公 則	(印)
主論文題目： "Frequent exacerbator" is a phenotype of poor prognosis in Japanese patients with chronic obstructive pulmonary disease. (日本の慢性閉塞性肺疾患患者の「頻回増悪者」は予後不良である)			

### 審査結果の要旨 (意見)

関連病院で治療中の慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者 (90 名) の予後因子 (増悪) に関する 1 年間の前向き研究である。サンプルサイズは小さいが、欧米で実施された大規模研究と同じデザインによるもので、日本人でも同様の結果となることを示した貴重な研究である。多変量解析の結果、オッズ比が高かった GERD (胃食道逆流) の治療や吸入ステロイド治療の適切な管理および体重維持など適切な栄養管理が、COPD 患者の増悪防止に繋がる可能性を示唆した。今後の COPD 患者の疾病管理に有用な知見を示唆したものであり、学位論文として価値の高いものであると判断する。

### 論文要旨

欧米の ECLIPSE 研究では慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の頻回増悪患者は増悪を翌年も繰り返す予後が不良とされた。日本の COPD 患者は欧米人と比較して増悪回数が少ないとされてきた。今回、ECLIPSE 研究のように日本人の COPD 患者において、増悪の危険因子は前年度の増悪頻度に依存するのかが検証した。方法として 1 年間の前向き試験で、90 名の COPD 患者において、過去 1 年間の増悪回数 (診療録で確認) および患者背景を登録した後に、中等症以上の初回増悪および増悪回数を観察した。その間の基本治療内容の変更はしなかった。過去年間増悪回数 0 回、1 回および 2 回以上をそれぞれ非、非頻回および頻回増悪群とした。検証の結果 78 名が観察終了時に解析可能と判断された。頻回増悪群は、非増悪群に比較して有意に頻回増悪を来した [odds ratio (95%CI) 2.9 (1.2-7.2),  $p < 0.05$ ]。多変量解析で、頻回増悪の危険因子として、胃食道逆流の存在、より高度な気流閉塞および吸入ステロイドの使用が挙げられた。本結果は将来リスクのひとつである増悪を予測するのに重要な結果であると考えられた。さらに、日本人でも欧米人と同じように増悪が増悪を呼ぶ結果が得られた。